

問一 I
ア 演繹 イ 帰納

問二 科学は仮説の検証による誤りの発見とその誤りの修正を繰り返しつつ発展してきたから。(四〇字)

問三 拡張的機能の性質を重視するアブダクションは、拡張的機能が大きい推論ほど間違う可能性の高い、弱い推論になるが、科学という厳密な学問領域とは一見相容れない創造性を積極的に受け入れる推論の形であり、そうした論理的には必ずしも正しくない思考によって、未知の存在や、既存のものの新しい関係の発見という思考の飛躍を可能にするから。(一五九字)

問四
理論(法則)

問五 驚くべき現象の原因究明には、現象を観察して、その現象の原因について可能な説明を与える仮説を考え出す必要があるが、仮説を検証可能な形に読み替え、真とされる前提から真である結論へと進む演繹も、観察による事実確認によって仮説を実証し、観察可能な事象を一般化する帰納も、新たなものを生まず、全てを同一人物が行う必然性はないから。(一六〇字)

問一 Ⅱ

- (a) 荒涼 (b) 侵食 (c) 痕跡 (d) 代謝 (e) 霸権

問二

自然を人間と二項対立的に捉える考え方。(一九字)

自然を人間と切り離して捉える考え方。(二八字)

問三

カメラマンが人が写真に写り込まないように作為して、ある範囲の「自然」を切り取り、境界化し、境界のなかに、「手付かずの自然」や「失われつつある自然」といった秩序を与えるように、人間の行為によつてさまざまな意味が付与されることで、文化的に記号化された自然は、それが表現され、受け止められる社会的文脈に依存するため、自然と人間は切り離せない関係にあるということ。(一七八字)

問四

両者には、資本主義的なシステムのもと、自然と人間が別の領域に存在するものだという前提に立ち、人間によつて構成された自然であるという共通点がある。一方、前者は、原始的で野性的で汚れない自然界である「第一の自然」が、人間の作為が加わることによって、大量に作り出された資源や商品であるのに対して、後者は、人間が、より収益性の高い、あるいは特許の取れる商品を得るために、人間以外の動植物の遺伝子コードそのものを操作し、生命の内側に介入して作り出した人工的な自然であるという相違点がある。(二四〇字)

Ⅲ

問一

- (a) 今『南留別志』を理解するような場合にも、たいして頼りにならなくて、
- (b) 申し上げたいことがとても多くあるけれども、
- (c) 御薬湯なども召し上がらず、

問二 江戸の砂や山は金が出る特徴を持っていないため、荻生徂徠の論拠である金砂が出たという話も誰かの嘘を信じ込んだものであるはずだから。

問三 漢語由来の「朝臣」という言葉の「朝」に和語の「朝」の意味や読み方を当てはめたわけではなく、政務に関する語の「朝」は、和語でも漢語でも、もとから「朝夕」の「朝」の意味を含んでいる。

問四

- (ア) 当時の文献にも薬を使用した記事が残っており、『源氏物語』にも随所に薬を用いる場面が見られること。
- (イ) 昔は祈禱で病気が治癒しており、和漢の医学書や役所でもまじないを扱っていて、医学とまじないとが深く関係していたこと。